

Q 農業労働力確保を支援するスマート農業の実践をしていることについて紹介して欲しい。

A 男鹿・天王で、国の事業である情報通信技術（ICT）を活用した収穫機械や半自動苗移植機の実用試験を行う予定です。

Q 注文書はコンパクトになったものの、書きにくくなった。

A 合併初年度で統一した様式になりましたが、ご要望をもとに平成31年度は検討いたします。

青年部・若手農業者と

常勤役員との情報交換会

（2月22日（金） J A秋田なまはげ会館）

Q 人事について、営農担当職員のさらなる充実をお願いしたい。職員の育成なくしてJ Aはありえないと思う。

A 営農指導員、営農アドバイザー等の資格習得を積極的に進め、職員の育成に努めております。J Aをめぐる情勢が変わり中央会等の組織構成も変化していくなか、皆様の期待に添えるような人事に尽力してまいります。

Q 人事異動後で、まだ物事を覚えていない職員が繁忙期に農家のところへ来ると、お互いに大変だと思う。もっと早い時期に研修を行う等できないか。

A 当J A内では新入職員を対象に、役員職員が講師となって研修を行っております。他J Aや外部関係組織と合同で行うものに関しては、日程の調整が難しいものもございますが、貴重なご意見として検討してまいります。

Q 営農指導員について、知識だけではなく圃場巡回に力をいれて、現場や地域を把握するようにしてほしい。また、職員によって指導に差があるうえに職員の入れ替わりがあるなか、今までの体制でいいのか。

A 日程や人手の関係で、一度に巡回できる圃場には限りがございます。電話等をいただければ随時対応いたします。

たしますので、どうぞご連絡ください。また、地域性や圃場状態等の情報共有に力を入れて職員の平準化を目指すとともに、営農指導経験者などの適切な人員配置を行うことで対応してまいります。

Q 営農指導員などの資格をどの職員が持っているのか、わかるようにしてほしい。

A 名札等に資格のマークを提示するなど、資格の明示に向けて整備を進めております。導入開始の際には、広報誌やホームページ等でお知らせいたします。

Q 品目によって精算時期が違う。また、精算時期を早くしてほしい。

A 秋田地区で導入していた精算システムが平成30年度で停止予定でしたが、2月に引き継ぎ会社が決まり、システム継続の目途が立ったところであります。平成31年度からは男鹿地区にも導入し、精算の効率化を進めてまいります。また、精算期間のアナウンスを徹底していくとともに、精算方法が複雑化しているため、生産者の皆様と相談しながらさらなる整備に努めたいと考えております。

Q 購買品の単位や手数料等の変更があった場合、事前にわからないと営農計画等に影響する可能性がある。周知を徹底してほしい。また、そのような場合やその他の情報を共有できるシステムやアプリがあればいいと思う。

A 資材の値上げや各種手数料の変更等があった場合には、生産者の皆様への周知を徹底いたします。情報共有のシステムについては、市況等も含めて整備を進めてまいります。

Q 農産物の検査員によって、検査に差があるように感じる。定期的な目揃え会等を実施してほしい。

A 農産物の等級は、産地の市場評価につながる重要なものであります。メロンの場合、出荷期間中には生産者が必ず集出荷所におり、検査員が迷ったときに生産者に意見を求める等協力を仰いでおります。J Aと生産者両方の目を鍛えることが大切と考え、お互いに意見交換をしながら検査技術の向上に努めたいと考えております。

Q 生産者間の品質統一は大切だが、どのようにすればよいか。

A 生産者の皆様には、J Aで開催する目揃え会への積極的な参加をお願いいたします。目揃え会は年に1回開催する場合がございます。今後は品種が変わった時期等、定期的に開催したいと考えております。

Q 生産者が実際に市場等に赴き、自分たちの生産物を手にした人たちが、現場の声を聞く機会が欲しい。

A 今後、視察研修等で機会を設けてまいります。

Q 施設の老朽化が目立つ。他県のJ Aでは箱詰めや選別までできる出荷施設がある。生産量を上げるためには、大きな施設が必要ではないかと考える。

A 施設は都度修理や改修等を行いつつ使用しております。増築等につきましては、品目の伸びしろや生産規模を見ながら検討していきたいと考えております。

Q 青年卒の理事を設けてほしい。

A 役員協議会等で検討してまいります。ただし、理事に係る責務等についてご理解いただきたく存じます。

Q 若い生産者への支援のさらなる充実を図ってほしい。

A 若手農業者の皆様が、持続的に地域農業を担う存在であります。しっかりとした将来ビジョンを持っていただき、J Aはそのビジョンに向けた相談や提案に応えてまいります。また、就農して日が浅い生産者が集まって、意見共有ができる機会も設けていきたいと考えております。

Q 具体的な合併のスケールメリットを教えてください。

A 肥料や農薬の仕入れ価格は上がっておりますが、供給価格は据え置きとなっております。大口肥料直送といった配送等のコストがかからない取り組みも、引き続き進めてまいります。また、今までは稲作に使える肥料や農薬が中心でしたが、果樹等の品目のものにも拡大をしていきたいと思っております。

